



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

アフガニスタン：シカゴで開催された NATO 首脳会議と「アフガニスタン会合」

2014 年末までの撤退を再確認

主席研究員 中島 勇

5月20日、米国シカゴで NATO 首脳会議が開催された。21日には、「アフガニスタン会合」が開催され、NATO 加盟国、NATO 非加盟国の ISAF 兵力貢献国及びアフガニスタンに加え、日本、ロシア、中央アジア諸国、EU、国連など約 60 の国・機関が出席した。日本からは、玄葉外相が参加した。同会合は、「ISAF 貢献国及びアフガニスタン政府によるシカゴ・サミット共同宣言」を採択して会議を終了した。

今回の会合では、現在アフガニスタンに派兵している NATO 軍を中心にした外国軍部隊が 2014 年末までに撤退すること、撤退後もアフガニスタン政府を支援していくことが改めて確認された。米国は、そのために 2015 年以降の米国とアフガニスタンの関係を規定する「戦略的パートナーシップ協定」を 4 月 22 日に仮調印し、5 月 1 日にオバマ大統領がアフガニスタンを訪問、2 日にカルザイ大統領と同合意に署名していた。21 日の会議終了後、記者会見したオバマ大統領は、アフガニスタン側への治安権限移譲は、治安の悪化を招きかねないリスクを抱えているとしたが、責任ある方法で撤退するとした。

NATO 諸国は、国内の厭戦気分の高まりや財政問題などへの配慮からアフガニスタン撤退を進めており、仮に 2014 年末時点でアフガニスタンの治安状況が十分に改善されていない場合でも、大枠での政治日程は変わらないだろう。欧米諸国は、アフガニスタンの治安維持をアフガニスタン政府軍にまかせるとしても、アルカーイダ勢力が残存する限り、一定の関与は続けるだろう。その点では、パキスタン国内のターリバーン勢力とアルカーイダが関係を維持していることのほうが大きな問題になる。しかし、パキスタンと NATO あるいは米国との関係は順調ではない。NATO がパキスタンのザルダリー大統領をシカゴ会合に招待したのは、開催直前の 5 月 15 日だった。ザルダリー大統領は、NATO 首脳会議に参加したが、パキスタン経由での ISAF への輸送再開の問題が決着せず、オバマ大統領とザルダニ大統領との会談は行われず、クリントン国務長官が会談している。

NATO 諸国は、2014 年末までは駐留するとしているが、一部の国は前倒で撤退する意向を表明している。仏国のオランド大統領は、仏軍を 2012 年末までに撤退させる意向を表明した。ニュージーランドも 2013 年末までに 145 人の兵士を引き上げるとしている。豪州は、2014 年末まで部隊を駐留させるとしているが、国内での議論は分かれているようだ。